



Q



CO2センサーの

適切な設置場所は？

A

基本的にはどこに設置しても大きな差異はありませんが、
以下の場所は避けてください。

過大な 値が表示 される場所



人の息が直接かかる場所

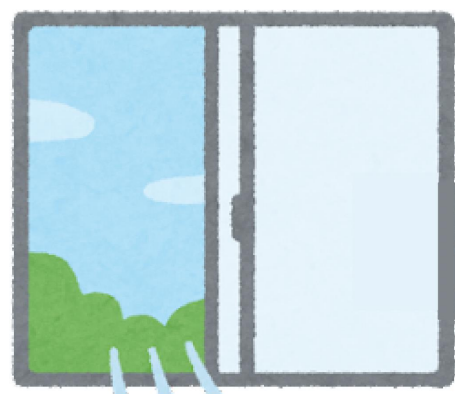


燃焼物がある場所

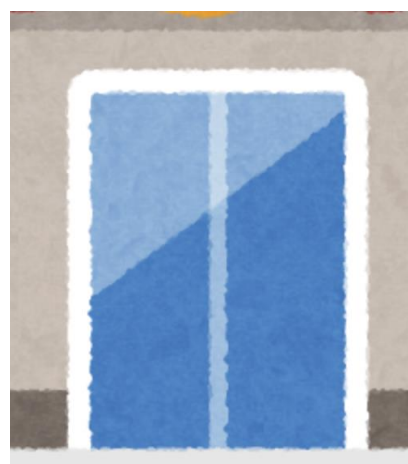


ビールサーバーの近く

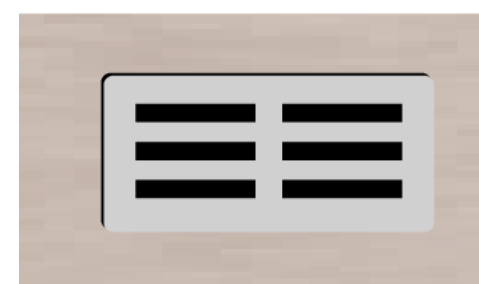
過小な 値が表示 される場所



窓の近く

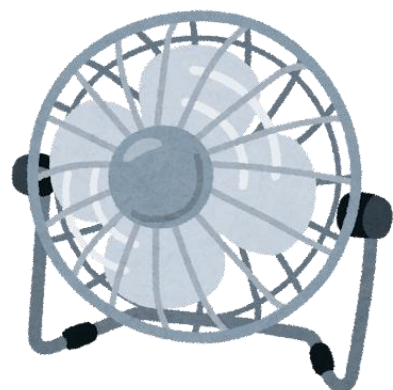


ドアの近く



空気取入口の近く

センサーの 精度が落ちる 可能性のある 場所



常に風が
かかる場所



温度が大きく
変化する場所



湿度が大きく
変化する場所

Q



サーキュレーターは、かえってウイルスを

撒き散らすのではないか？



A

サーキュレーターの風が直接、コロナウイルスの陽性者に当たってしまふことで

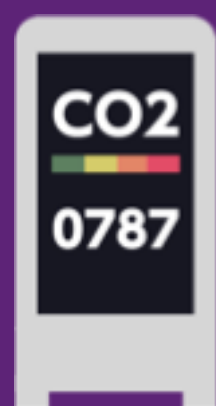
ウイルスを含むマイクロ飛沫※が撒き散らされ集団感染が起きた事例が国内で報告されています。

※空気中を浮遊する小粒子や細かい飛沫

サーキュレーターは「汚れた空気を押し出す」ために使うことが有効です。**窓に向かってサーキュレーターを配置するなど、風を直接人に当てないように注意してください。**



Q



石油ファンヒーター等を使うとにすぐにCO2濃度が上昇。

換気のタイミングの判断は？

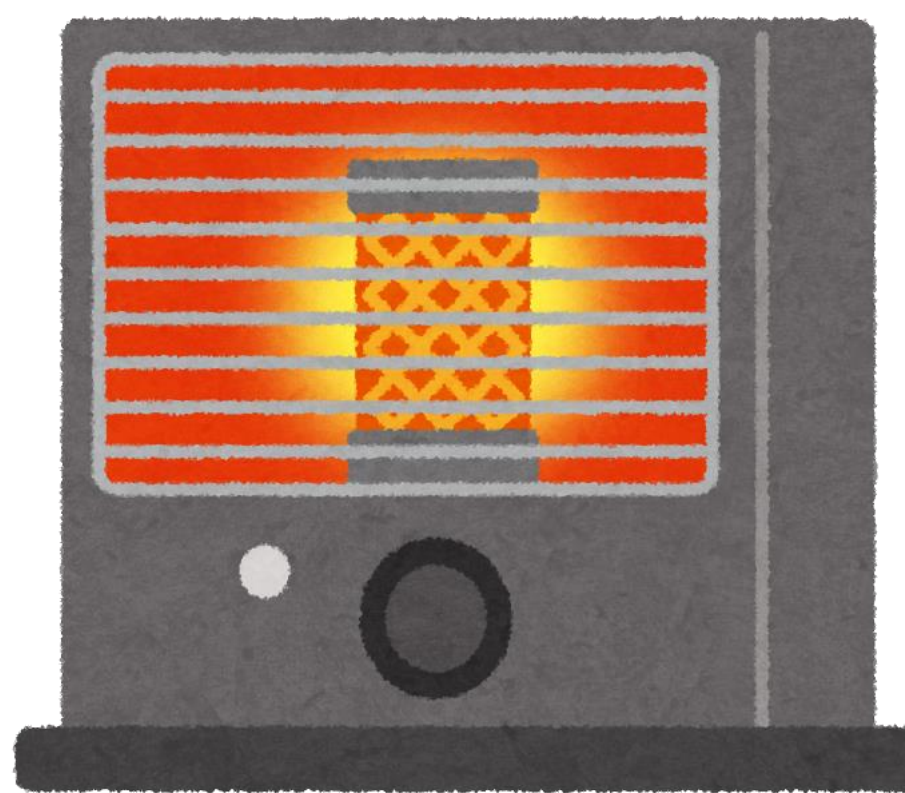
A

燃烧式の暖房器具はCO2が大量に発生するため、

これらの暖房器具の使用中はCO2センサーで換気のタイミングを計ることは難しくなります。

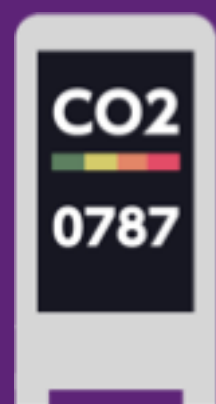
感染症対策とは異なりますが、**CO2濃度が1000ppmを超えると意思決定能力の低下**が報告されており、感染症対策のみならず、労働衛生の観点からも、**CO2濃度を1,000ppm以下に保つことは有用**といえます。

こまめな換気（30分以上、一回以上、数分間程度、部屋のドアや窓を全開する）を推奨します。





Q



季節や天候によって、CO2センサーの
数値が上がってしまう？

A

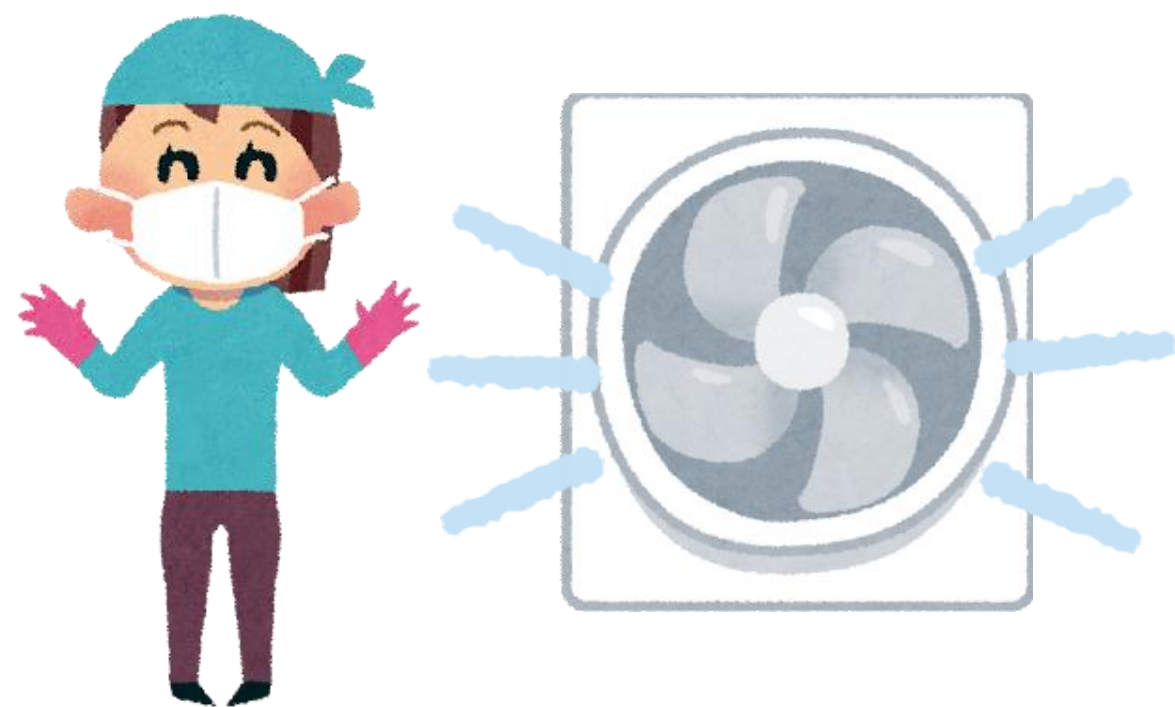
降雨・降雪ではCO2濃度が減少すると言われてはいますが、その減少量は50ppm以下ですので

**天候による
 大きな影響は
 ありません。**



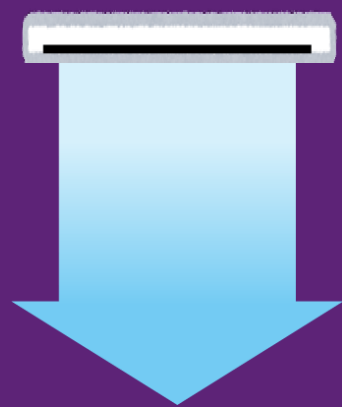
しかし、乾燥した大気中では粘膜も乾燥してしまうため、ウイルス感染のリスクが上昇します。**基本的には天候に関係なく換気を実施していただく**ことが、感染拡大防止において非常に重要です。

冬場や梅雨で窓・ドアを開けにくく、自然換気ができないような時期は、
 ・換気扇のスイッチを<強>にする
 ・換気扇のフィルターを掃除する等を具体的な対策としてください。





Q



エアカーテンを設置しましたが、感染対策として
使用した方が良い？

A

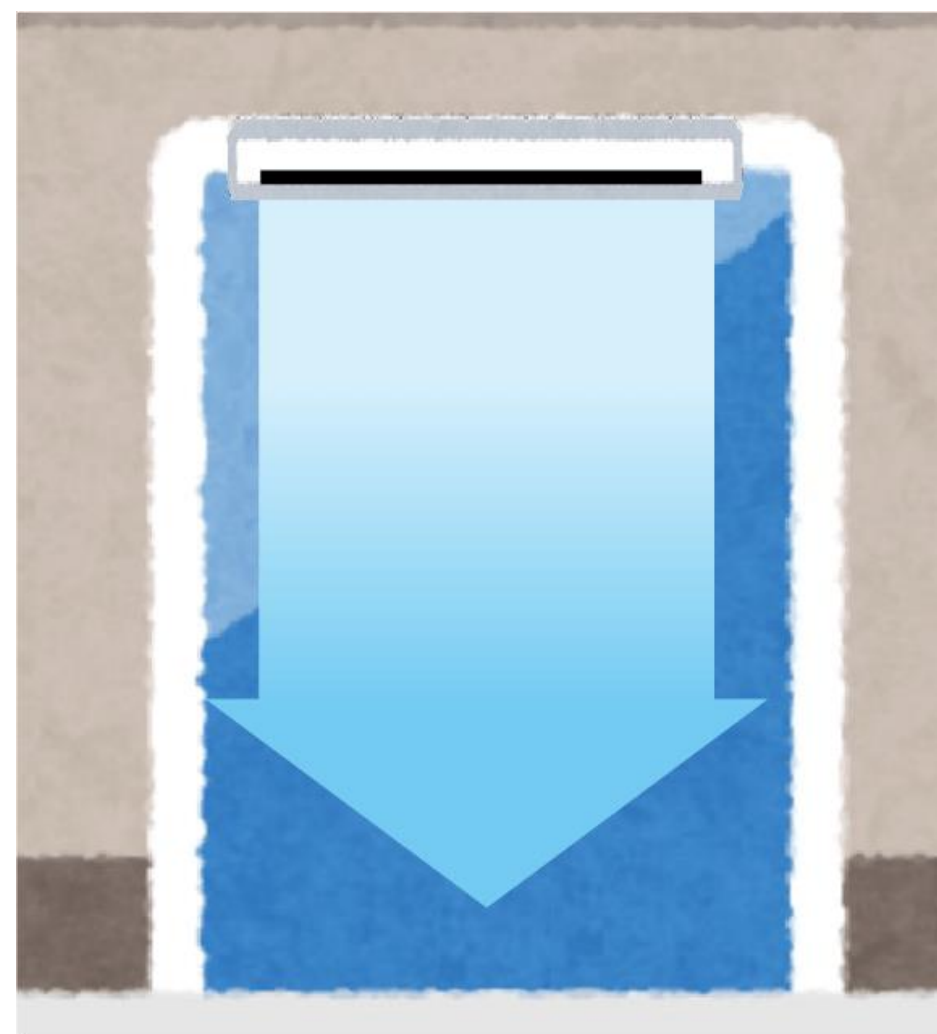
設置方法によっては有効に働く場合がありますが使用方法を誤ると風が直接コロナウイルスの陽性者に当たってしまうことで

ウイルスが撒き散らされてクラスター化する等の逆効果もありますので、ご注意ください。

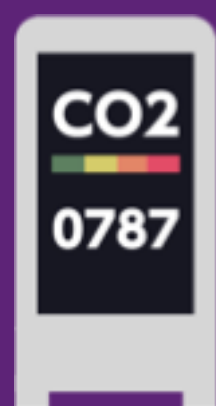
使用する際は以下の点にご注意が必要です。

エアカーテンは空間を仕切る目的で使用する

エアカーテンの風が直接、人にかからないように注意する



Q



窓が一つしかないので、奥まで換気が行き届いているか不安。
どうすれば良いか？

A 窓が一ヶ所だけの場合でも 換気効果はあります。

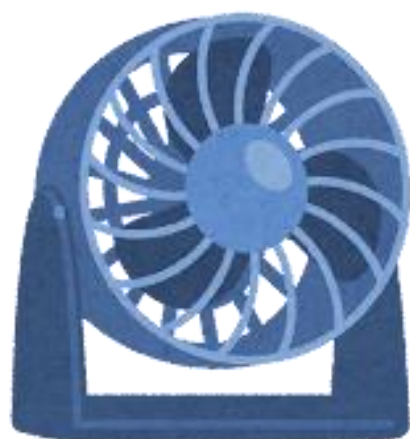
窓を一ヶ所、数cm空けるだけで、換気扇などの換気設備による換気と比べ、換気量が2倍に増大した事例もあります。



しかし、奥の空間に空気が滞りやすいことは事実です。
**奥の空間にCO2センサーを設置して換気状況を
 モニタリングすることを推奨します。**

その上で、奥の空間の換気が悪い場合には、
 次のような換気対策を行ってください。

対策1



奥の空間の汚れた空気を窓の方に
 押し出すように**サーキュレーターを設置**する。
 (ただし人に直接当たらないよう注意する)

対策2



奥の空間に**空気清浄機を設置**する、
 又は換気設備（換気扇など）を増設する。